

令和6年度住之江区運営方針(案)について 【愛しむ部会】

経営課題2 【すべての人が自分らしく暮らせるまちづくり】

めざす成果及び戦略

- | | | | |
|-----|----------------|----|----|
| 2-1 | 【地域の活力と魅力の向上】 | …… | 4 |
| 2-2 | 【支え見守りあう地域づくり】 | …… | 12 |



経営課題2 すべての人が自分らしく暮らせるまちづくり みんなで助け合い、自分らしい暮らしを安心して送ることができるまち

2-1 地域の活力と魅力の向上

将来像

多様な主体の連携によるまちづくりで地域の活気と魅力の向上

課題

多様な主体の活動と相互連携の活性化、地域活動協議会の自律へのサポート
多様な主体の情報発信へのサポート

P4

▲ この将来像に向けて3つの取組を進めています

【具体的取組2-1-1】 多様な主体による地域の活気と魅力づくり

取組

＜課題＞地域課題の解決に向けた協働取組が更に活発になるよう支援が必要。
＜方向性＞まちづくりセンターと連携し、企業・NPO・学校・地域交流会や地域活動応援サークルの継続的な支援を実施。

P5

【具体的取組2-1-2】 地域活動協議会による自律的な地域運営の促進

取組

＜課題＞必要な情報が届くよう地域活動協議会自ら積極的な情報発信を行うための支援が必要。
＜方向性＞地域活動協議会の情報発信等にかかるスキル向上のための取組をまちづくりセンターと連携しながら支援。

P7

【具体的取組2-1-3】 地域の魅力の共有と発信

取組

＜課題＞区民にとって関心の高い情報の投稿を増やすことで、閲覧者の増加に繋げる取組が必要。
＜方向性＞すみのえ情報局へ掲載された内容を広報紙で紹介する等、引き続き各団体からの積極的な投稿を促す工夫を検討。

P10



2-2 支え見守りあう地域づくり

将来像

みんなで見守りあい、専門家と連携して支援を提案できる状態

課題

専門機関と連携して支援できる、課題解決に自律的に取り組む地域づくり

P12

▲ この将来像に向けて2つの取組を進めています

【具体的取組2-2-1】 安心を提供する福祉施策の推進

取組

＜課題＞区民に対して安心して相談できる水準の高い相談支援体制の充実が必要。
＜方向性＞安心を提供する福祉施策の推進につなげるため、安定的に継続した研修等を実施し、区民の困りごとに対して職員の「気づき」や「感度の向上」を促進

P13



【具体的取組2-2-2】 地域福祉の充実

取組

＜課題＞見守りあったかネットサポーター養成講座について、新たにサポーターとして参加してくれる区民を増やす工夫が必要。
＜方向性＞地域のつながりを活用するなどして、どのようなサポートを必要としているかなどのニーズを明確化し、間口を広げることで、区民の参加を促進。

P14

令和6年度 住之江区運営方針(案)

区の目標(何をめざすのか)

- 子どもから高齢者まで、住之江区で暮らし、学び、働くすべての人が、自分の将来に夢と希望を持って、地域など、周りの人々と幸せに暮らすことのできるまちをめざす。
- 住之江区の名前の由来のとおり、すみよい区、すなわち“e-SUMINOe”を「めざす将来像」とする。

区の使命(どのような役割を担うのか)

- 地域と共に進めるまちづくり
 - ・区民意見の反映
 - ・地域活動協議会、NPO、企業等の交流促進
 - ・若い世代との協働
- ICTを活用した情報発信の充実
 - ・分かりやすい広報
 - ・多様な手法を活用した情報発信

令和6年度 区運営の基本的な考え方(区長の方針)

- より安心して子育てができ、未来を担う子どもたちが夢と希望を持って学ぶことができる環境づくり
- すべての人々が住之江区に愛着をもち、自分らしく暮らせるまちづくり
- 自助、近助、共助、公助による備えのできた防災力の高い、安心して暮らせるまちづくり

経営課題2 すべての人が自分らしく暮らせるまちづくり

【主なSDGsゴール】



めざすべき将来像(最終的なめざす状態)〈概ね10~20年間を念頭に設定〉

地域の人々や様々な機関が、それぞれの立場でできることを行い、できないところはお互いに連携し取り組んでいくことで、すべての人々が温かく見守られたり、必要な支援を受けながら、住み慣れた地域に愛着を持ち、自分らしい暮らしを安心して送ることができるまちをめざす。

課 題

【地域の活力と魅力の向上】

・企業・NPO・学校・地域交流会を開催するなどの支援により地域活動協議会の自律度は着実に改善しているものの、引き続き、より幅広い人材、団体など、多様な主体による地域活動及び主体間の相互連携の一層の活性化を図るとともに、地域の自主財源の強化のためのサポートや、新たな地域活力を創出するためのICT活用など、地域活動協議会の自律的な運営をより一層促進する必要がある。

・また、既存の地域イベントだけでなく、更なる地域の魅力の再発見や新たな魅力の創出につながるよう、これまでの紙媒体での広報に加え、SNSなど多様な広報媒体を活用し、地域の魅力の共有と発信が一層進むよう取り組む必要がある。

【支え見守りあう地域づくり】

・福祉関連施策をより着実に推進するとともに、多様化・高度化する社会環境に柔軟に対応できるよう、関係機関との相互連携を一層強化するなど、支援を必要とする人に寄り添い支える地域づくりを一層進める必要がある。

・地域福祉計画や広報紙などによる啓発や、地域での見守りの担い手である「見守りあったかネットサポーター」の養成、区社会福祉協議会との連携などによる地域福祉の一層の充実を図る必要がある。

【主なSDGsゴール】



めざす状態

【令和3～7年度の5年間】

- 個人、地域団体、NPO、企業等による活発で多様な活動を源泉にしたまちづくりにより、地域の活気と魅力が向上している状態。
- 地域特性に即した地域課題(防災、防犯など安心・安全なまちづくりにかかる取組及び地域福祉、子育て支援、地域コミュニティづくりなど)の解決に向けた取組が自律的に進められている状態。

戦略(中期的な取組の方向性)

指標

- 防災、防犯など安心・安全なまちづくりにかかる取組及び地域福祉、子育て支援、地域コミュニティづくりなど様々な活動が将来にわたって自律的により活発なものとして発展していけるよう、環境づくりを進める。
- 自分の暮らす地域への誇りや愛着は、充実した日常生活を送るうえで重要であり、こうした機運を高めていくための環境や仕組みづくりを進める。
- 地域活動協議会のめざすべき姿に向けて、地域の実情に即したきめ細かな支援を行い、仕組みの定着を図ることで、より多くの住民参加による自律的な地域運営を実現する。

- 令和7年度末までに、地域活動協議会の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合90%以上

経営課題2 すべての人が自分らしく暮らせるまちづくり

【具体的取組2-1-1】

多様な主体による地域の活気と魅力づくり

方向性

課題

- 地域課題の解決に向けた協働取組が更に活発になるよう支援が必要である。

方向性

- まちづくりセンターと連携しながら、企業・NPO・学校・地域交流会や地域活動応援サークルの継続的な実施により、地域課題の解決に向けた協働取組が更に活発になるように支援する。

取組内容

- 地域の内外の人材、資金、地域情報等の地域資源を活用しながら、次世代の担い手確保等の地域課題を解決するために、中間支援組織と連携しながら 企業・NPO・学校・地域交流会等を開催する。
- 交流会等でできたつながりをもとに地域課題の解決に向けた協働取組の支援を行う。

指標

- 地元企業、NPOの人材、資金、地域情報等の地域資源を活用した地域活動の実施 12件以上

前年度までの実績

- 【5年度】(令和5年12月末時点)
- 地元企業、NPOの人材、資金、地域情報等の地域資源を活用した地域活動(新北島見守り活動、敷津浦健康ウォーキング、企業・NPO・学校・地域交流会の開催(9月)等)の実施 13件
 - 地域活動応援サークルイベント部会会議の開催 8回
 - 地域活動応援サークルイベント(オンラインラジオ体操)の開催 18件
- 【4年度】
- 地元企業、NPOの人材、資金、地域情報等の地域資源を活用した地域活動(地域見守り活動、地域健康ウォーキング、地域活動5周年記念ミーティング、企業・NPO・学校・地域交流会の開催(11月・3月)等)の実施 13件
 - 地域活動応援サークルイベント部会会議の開催 13回
 - 地域活動応援サークルイベント(オンラインラジオ体操)の開催 24件
- 【3年度】
- 地域資源を活用した地域活動(スマホ教室・地域見守り活動・すみのえアート・ビート等)の実施 14件
 - 地域活動応援サークルイベント部会会議の開始開催 13回
 - 地域活動応援サークルイベント(オンラインラジオ体操)の開催 17回

予算案

59,101千円

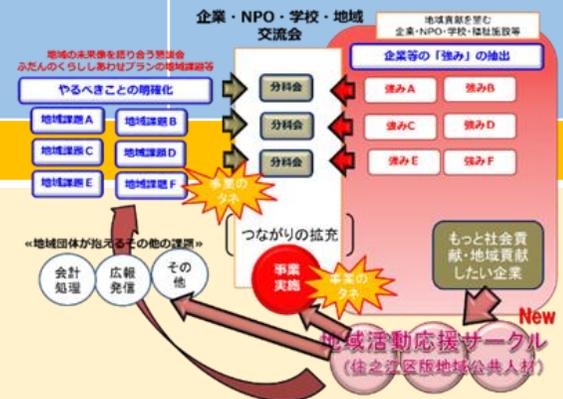
クローズアップ –取組の解説–

■企業・NPO・学校・地域交流会

地域の課題解決に向け、企業・NPO・学校・地域の異なる活動者のつながりづくりとして開催しています。

■地域活動応援サークル

企業・NPO・学校・地域交流会に参加した企業等が地域に貢献するための事業を企画・実施するために結成されたサークルです。



委員からのご意見	分類	対応方針
<p>【部会】 ●先日開催された「企業・NPO・学校・地域交流会」に参加して、すごくよい取組だと思った。今後、地域や企業、NPOなど様々な人が、より多く参加することで、もっと効果的な取組となると思うので工夫してほしい。</p>	<p>②</p>	<p>主催のまちづくりセンターと連携して、参加団体の呼びかけ方法等を工夫するなど、より効果的な取組となるよう検討してまいります。</p>
<p>【部会】 住之江区出身のスポーツ選手やアーティストをもっと情報発信し、区のイベントに呼ぶことができれば、子どもたちの刺激にもなるし、人を集めることができるのではないかと。また、区内には特色ある素晴らしい高校があるので活用できればよいと思う。</p>	<p>①</p>	<p>子どもたちのキャリア形成や地域の活性化に向け、ラグビーチーム「レッドハリケーンズ大阪」の選手が、小学校でのあいさつ運動やラグビー指導に参加しました。また、地域と高校が連携して、集会所の落書き対策としてウォールアートを制作したり、すみのえアート・ビートで区内の高校の生徒がアート作品の展示を行ってイベントを盛り上げるなど、相互に連携協力を図り、取組を進めております。また、地域の企業・団体等にご協力いただき市立小・中学校において探究活動・体験活動に取組んでおります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

※分類 ①既実施 ②当該年度において対応予定 ③次年度運営方針に反映または次年度に対応予定
④今後引き続き検討 ⑤対応困難または対応不可 ⑥その他

経営課題2 すべての人が自分らしく暮らせるまちづくり

【具体的取組2-1-2】

地域活動協議会による自律的な地域運営の促進

方向性

課題

- 必要な地域情報が必要な人に届くよう、地域活動協議会自ら積極的に情報発信が行えるための継続的な支援が必要。

方向性

- 地域活動協議会の情報発信等にかかるスキル向上ための取組をまちづくりセンターと連携しながら支援する。

取組内容

- まちづくりセンターと連携し、地域の実情に応じて、地域活動協議会の自律運営に向けた支援を行う。
- まちづくりセンターと連携し、地域広報紙の発行やICTを活用した広報など、地域活動協議会の情報発信等の取組を支援する。
- 区広報紙等において地域活動協議会の紹介をするなど、地域活動協議会の認知度向上に向けた情報発信を行う。

指標

- 地域活動協議会の構成団体が自分の地域に即した支援を受けることができていると感じた割合 90%以上

計画

前年度までの実績

【5年度】(令和5年12月末時点)

- 地域活動協議会実務者交流会「広報編」にてICTを活用した広報について説明（8月）
- 区広報紙において、毎月、地域活動協議会の活動を紹介

【4年度】

- 会計事務説明会を開催し、地域活動協議会の意義や準行政的機能、総意形成機能について説明(全地域)
- 地域活動協議会が自らもICTを活用し、積極的な情報発信が行えるよう動画作成講座を開催(3回連続講座×1クール)
- 実務者交流会「広報編」の開催(11月)

【3年度】

- 各地域活動協議会が自ら積極的な情報発信が行えるよう、動画作成講座を開催(全地域)
- 会計事務説明会を開催し、地域活動協議会の意義や準行政的機能、総意形成機能について説明

予算案

—

クローズアップ — 取組の解説 —

■実務者交流会「広報編」

地域活動協議会の情報発信等のスキル向上のため講座やすみのえ情報局への投稿の仕方、各地域の広報の情報共有を行っています。

■区広報紙において地域活動協議会の活動を紹介

毎月、「ミyakumiyakuとつながる地域の活動×SDGs」として、地域の活動紹介と想いを掲載しています。



委員からのご意見

分類

対応方針

【部会】

●地域活動協議会という名前は聞いたことがあるが、組織構成や参画の方法等がわかりにくい。

引き続き区政会議での情報共有に加え、広報紙やSNSでの発信などに取り組むとともに、まちづくりセンターと連携して地域による情報発信の支援に取り組んでまいります。

①



【部会】

●子どもが成長し大きくなるにつれて、地域との関わりがなくなってくる。そういった年代、世代の人が身近に感じ、参加できるような仕組みがあればよいと思う。また、地域とのつながりが薄い区民への幅広い広報も必要と感じる。

地域活動協議会・各種団体とも、地域の活動に尽力してくれております。地域とのつながりが薄い区民の方に、地域の活動を身近に感じてもらい、関心を持っていただくため、地域ポータルサイト「すみのえ情報局」や住之江区HP、広報紙「さざんか」といった広報媒体を活用し、引き続き情報発信の強化に務めてまいります。

①

- ※分類
- ①既実施
 - ②当該年度において対応予定
 - ③次年度運営方針に反映または次年度に対応予定
 - ④今後引き続き検討
 - ⑤対応困難または対応不可
 - ⑥その他

委員からのご意見

分類

対応方針

【全体会】

●区民マラソンは、歴史ある素晴らしいイベントだと思ふ。大学など幅広くサポートをお願いして、色々な場所で音楽を聴けたり、広がりのあるイベントにしてはどうか。また、障がい者など多様な方が参加しやすいイベントにしてはどうか。

①

マラソン大会は、事業者と地域団体が連携して、誰もが参加でき楽しめるよう工夫しながら実施しているところです。引き続き、より広がりのある魅力あるイベントになるよう取り組んでまいります。

【全体会】

●地域活動協議会が色々なことをやっておられるというのは分かるが、本当はやりたいけどもやっていない、又はできていないことが分かれば、地域住民として、特に若い方もそれなら協力できるということもあるのではないか。

①

引き続き、まちづくりセンターと連携して、地域活動協議会による情報発信等の支援を行ってまいります。



※分類 ①既実施 ②当該年度において対応予定 ③次年度運営方針に反映または次年度に対応予定
④今後引き続き検討 ⑤対応困難または対応不可 ⑥その他

経営課題2 すべての人が自分らしく暮らせるまちづくり

【具体的取組2-1-3】

地域の魅力の共有と発信

方向性	課題
	●区民にとって関心の高い情報の投稿を増やすことで、閲覧者の増加に繋げる必要がある。

方向性
●すみのえ情報局へ掲載された内容を広報紙で紹介する等、引き続き各団体からの積極的な投稿を促す工夫を検討する。

取組内容	指標
<ul style="list-style-type: none"> ●区内外の方に住之江区を知ってもらうことを目的とするポータルサイト「すみのえ情報局」を運営し活用して、区内の関連団体等の情報発信を支援(サイト周知、登録支援、投稿支援等)する。 ●ポータルサイトの閲覧・活用の促進を目的として、スマホの使い方を習得するための支援を行う。 	●ポータルサイトを活用して情報発信を行った件数 150件以上

計画	前年度までの実績	予算案
	<p>【5年度】(令和5年12月末時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●登録団体数 58団体 ●協働ポータルサイトにて情報発信を行った件数 257件 ●スマホの使い方習得支援 10地域 <p>【4年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●登録団体数 55団体 ●協働ポータルサイトにて情報発信を行った件数 458件 ●動画作成講座の開催 3回連続講座×1クール 延べ30名参加 ●スマホの使い方習得支援 3地域 <p>【3年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●令和4年2月1日ポータルサイト「すみのえ情報局」開設 ●広報紙1月号特集、ホームページ、各種SNS、地域連絡会等で周知 ●協働ポータルサイトにて情報発信を行った件数 74件 ●動画作成講座の開催 3回連続講座×3クール 延べ67名参加 	<h1>4,177千円</h1>

クローズアップ —取組の解説—

■「すみのえ情報局」における各種団体への投稿支援

区民にとって身近な活動について投稿してもらえよう、簡易投稿マニュアルや説明動画を活用し、引き続き投稿支援を行ってまいります。

すみのえ情報局はこちら



■身近な場所でのスマホ相談

住之江区内のふれあい喫茶等でスマホ相談に応じる「スマホちょっと相談会」を開催しています。令和5年度からは、青少年指導員連絡協議会と連携して開催しています。



委員からのご意見

分類

対応方針

【部会】

●地域の活動を、特に若い世代につなげるためには、インターネットやSNSなどを効果的に活用する必要があります。地域に対してホームページやSNSの活用など、更なる広報活動への支援が必要だと思ふ。

①

地域活動協議会による自律的な地域運営の促進の取組みとして、地域活動協議会の広報担当の交流会の開催、区の広報紙での活動紹介などを行いました。引き続き、まちづくりセンターと連携して情報発信等の支援を行ってまいります。

【部会】

●スマホを持っているが使い方がわからない高齢者が多い。スマホ教室等も実施されているが、民間で取り組んでいるところもある。希望者が身近で気軽に参加できることが有効であると思ふ。

①

住之江区では、国や大阪府の事業を活用したスマホ教室や、各地域活動協議会と連携し、ふれあい喫茶の開催時に「スマホちょこっと相談」を実施しています。今後も、様々な機会を捉えて、身近で気軽に参加いただけるよう取り組んでまいります。

11/8(水) 10時～
【初めて触る！スマートフォン体験】
【入門編】

スマートフォン初心者や購入検討の方を対象とした講座です。
「スマートフォンに自信を持って、よく使わねえ！」
「自分にとって必要なアプリは？」
と悩んでいる方、講座に参加してみませんか？
スマホの操作手法や楽しみ方などを知ってほしいことをご紹介します。

項目	詳細	内容
主催：区民会館	10時	開会式・開演
主会場：区民会館	10時	スマホの基本操作、スマホの活用
分会場：区民会館	10時	スマホの活用（写真、メール、LINEなど）
分会場：区民会館	10時	スマホの活用（アプリのインストール）
分会場：区民会館	10時	スマホの活用（アプリのインストール）

講師：区民会館のスマートフォン教室を担当している方です（講師費）。

お申し込み・お問合せ
お申し込み：区民会館 総務課 06-6441-2000（平日）
お申し込み：区民会館 総務課 06-6441-2000（平日）
お申し込み：区民会館 総務課 06-6441-2000（平日）

はじめてのスマートフォン
体験型講習会

【スマートフォン、使い方がわからなくて悩んでいる方、身近な方から教えてほしい方、スマホの活用方法を知りたい方、スマホの活用方法を知りたい方、スマホの活用方法を知りたい方】

講座内容：ご自身の理解にあわせて、自由に組み合わせて受講できます！

講座内容	受講料
・スマホの基本的な操作	無料
・スマホの活用（写真、メール、LINEなど）	無料
・スマホの活用（アプリのインストール）	無料
・スマホの活用（アプリのインストール）	無料
・スマホの活用（アプリのインストール）	無料

令和5年11月10日（金）受付開始

お申し込み・お問合せ
お申し込み：区民会館 総務課 06-6441-2000（平日）
お申し込み：区民会館 総務課 06-6441-2000（平日）
お申し込み：区民会館 総務課 06-6441-2000（平日）



※分類 ①既実施 ②当該年度において対応予定 ③次年度運営方針に反映または次年度に対応予定
④今後引き続き検討 ⑤対応困難または対応不可 ⑥その他

経営課題2 すべての人が自分らしく暮らせる まちづくり

【めざす成果及び戦略2-2】

見え見守りあう地域づくり

【主なSDGsゴール】



めざす状態

【令和3～7年度の5年間】

- 地域の誰もがちょっとした声掛けなどを通じて地域の気になる方を温かく見守りあうとともに、支援を必要とする人の抱える課題に対して、さまざまな分野の関係機関が連携協力し、より課題に即した支援を提案出来るようになっている状態。

戦略(中期的な取組の方向性)

- 複雑化・多様化する福祉課題に対して、福祉関連施策を着実に推進するとともに、多様な関係機関のネットワークの充実を図り、区民に寄り添い、誰もが安心して生涯が送れるまちづくりを進める。
- また、住み慣れた地域で、誰もが自分らしく安心した生活が送れるよう、地域の中で互いに支え合いながら、自分らしく活躍できるコミュニティづくりを進める。

指 標

- 令和7年度末までに、区民アンケートで「生活している中で地域との「つながり」を感じることがありますか」に対して、肯定的な回答をする割合60%以上

方向性	課題	方向性	
計画	<ul style="list-style-type: none"> ●区民に対して安心して相談できる水準の高い相談支援体制の充実を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●安心を提供する福祉施策の推進につなげるため、安定的に継続した研修等を実施し、区民の困りごとに対して職員の「気づき」や「感度の向上」を図る。 	
	<p style="text-align: center;">取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ●区役所の全ての職員が、区民の困りごとに対してよりの確な支援につなげられるよう、「気づき」や「感度の向上」に関する安定的に継続した研修等を実施し、相談対応力の向上を図る。 ●個別の支援にあたっては、関係機関の情報共有・連携のため、関係法令に基づく会議のほか、総合的な支援調整の場(つながる場)及び生困シェア会議などの積極的な活用を進める。 	<p style="text-align: center;">指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ●区役所の全職員に対して実施するアンケートで「区民の相談に対して、適切な支援につなげられるように、課題に「気づく」ことを意識して行動できる。」と回答する割合 50%以上 	
	前年度までの実績		予算案
	<p>【5年度】(令和5年12月末時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「気づき」「感度の向上」にむけた研修の実施 1回 ●総合的な支援調整の場(つながる場)の開催 2回 ●住之江区合同会議の開催 2回 <p>【4年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「住之江区事実確認シート」の供用 ●「気づき」「感度の向上」にむけた研修の実施 2回 ●総合的な支援調整の場(つながる場)の開催 1回 ●住之江区合同会議の開催 2回 <p>【3年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「住之江区事実確認シート」の作成 ●eラーニングによる「気づき」「感度の向上」にむけた研修の実施 1回 ●総合的な支援調整の場(つながる場)の開催 1回 ●住之江区合同会議の設置(7月) ●住之江区合同会議の開催 5回 		—

クローズアップ —取組の解説—

■職員の「気づき」「感度の向上」に向けた取組

- 区職員に対し区民の課題に対する更なる「気づき」「感度の向上」を促し、区役所内や関係相談機関との連携を含めて、必要な支援につなげる行動をとることができるよう、研修等を実施します。
- 区民の相談の内容に対しの確な支援につなげるよう「事実確認シート」を引き続き活用し、区職員の「気づき」「感度の向上」を促します。



経営課題2 すべての人が自分らしく暮らせるまちづくり

【具体的取組2-2-2】

地域福祉の充実

方向性	課題	方向性
	●見守りあったかネットサポーター養成講座について、新たにサポーターとして参加してくれる区民が少ない。	●地域のつながりを活用するなどして、どのようなサポートを必要としているかなどのニーズを明確化し、間口を広げることで、区民の参加促進へと繋げる必要がある。

計	取組内容	指標
	<ul style="list-style-type: none"> ●ちょっとした声掛けや見守りといった地域福祉の取組への参加を促進できるよう、各地域の取組や課題を把握し、啓発を行う。 ●各地域や企業、学校等において、高齢者、障がい者、児童などに対する地域の見守り活動の担い手である「見守りあったかネットサポーター」を養成する。養成においては、「見守りあったかネットサポーター養成講座」をより多くの参加を促進するため、時間帯や曜日などを柔軟に開催する。 ●区社会福祉協議会と連携し、要援護者名簿の活用や新しい生活様式を踏まえた見守り等、地域福祉活動に関する先進的な取組を各地域と共有するとともに、見守り相談業務などの地域福祉活動におけるICT活用や、見守りあったかネットサポーター養成講座等の研修でのICT活用について、地域、関係機関とともに検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●区民アンケートで「地域福祉活動について関心がある・ある程度関心がある」と回答する割合 50%以上 ●区民アンケートで「地域福祉活動に参加している・参加したことがある」と回答する割合 20%以上 (※地域福祉活動の例：高齢者食事サービス、ふれあい喫茶などのサロン活動、日常的な訪問による見守り活動 など)

画	前年度までの実績	予算案
	<p>【5年度】(令和5年12月末時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コーディネーター相談件数 1490件(延べ) ●見守りあったかネットサポーター養成講座の開催 (地域向け)15回 295名参加 (学校向け)7回 418名参加 (企業等向け)82名参加 ●見守りあったかネットコーディネーター・リーダー研修の開催 1回 25名参加 <p>【4年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コーディネーター相談件数 2,566件(延べ) ●見守りあったかネットサポーター養成講座の開催 ●区広報紙を用いた地域福祉活動の啓発 7回 (地域向け)15回 307名参加 (学校向け)7回 582名参加 (企業等向け)2回 88名参加 ●見守りあったかネットコーディネーター・リーダー研修の開催 2回 43名参加 ●見守り活動見本市の開催(6月18日) 91名参加 <p>【3年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コーディネーター相談件数 2,738件(延べ) ●区広報紙を用いた地域福祉活動の啓発 7回 ●地域、学校向けの見守りあったかネットサポーター養成講座の開催 12回 548名参加 ●福祉会館でのワクチン接種予約支援件数 253件 ●ICT機器(タブレット等)を活用した地域との連携会議開催 6回 	<h1>12,490千円</h1>

クローズアップ —取組の解説—

■見守りあったかネットサポーター養成講座

日頃気になる地域住民の生活に異変を感じたら、関係機関に連絡するという「ゆるやかな見守り活動」から、定期的な安否確認が行えるよう、各地域において見守りあったかネットコーディネーターが養成講座を開催することで、サポーターの絶対数を増やし、「組織的な見守り活動」が行える地域の体制を構築することを目標とします。

